

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200089		
法人名	有限会社フタバメイト		
事業所名	グループホームさくらぎ庵1階A		
所在地	愛知県大府市桜木町2丁目230番地		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の尊厳を守り、その人らしく最期まで暮らしていける施設にする為、職員 利用者 家族 地域 また医師と協力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2394200089-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体は、近隣で開業している医療機関であるため、医療面での支援が充実していることが特徴でもある。法人代表者が医師の親族でもある看護師であり、利用者の身体状態に変化があった際には、柔軟な対応が行われており、利用者、家族にとっては、ホームで安心して過ごすことができる体制が整えられている。ホームでは、必要な人数の職員配置を行っていることで、日常的な申し送り等を通じて利用者に関する気付き等の情報を共有し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。毎日の食事の際には、職員も利用者と一緒に食事を行っており、会話をしながら楽しく食事を行う取り組みが行われている。また、今年度の避難訓練の際には、新たに水害のリスクを考慮した訓練を行っている。1階の利用者を2階に上げる訓練を行っており、安全に配慮した取り組みが行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年3月3日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	目の付く場所に掲示し利用者の思いを職員は理解しその人らしい生活が出来るよう支援している。	利用者を尊重しながら、その人らしい生活ができることを目指した理念を掲げており、ホーム内への掲示が行われている。また、パンフレットにも記載しており、家族にもホームの基本方針が分かるように取り組んでいる。	開設時から職員体制が変わっていることもあるため、職員間で理念を振り返りながら、日常の支援につながるような取り組みにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩中での挨拶や花や野菜を頂いたり柿狩りをさせて頂くなど交流をしている。	運営母体でもある医療機関が地域で開業していることもあり、ホームも地域の方との交流等が行われている。地域の行事でもある山車の飾りをつくる協力をする取り組み等、ホームで出来る交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々には認知症と理解した上で話しかけて頂いた事により笑顔になり会話発信が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	議事録を回覧し会議内容を共有してサービス向上に活かしている。	会議を定期的に行っており、ホームの運営状況を報告しながら、出席している地域の方との情報交換等が行われている。また、会議の際には母体医療機関の医師が出席していることもあり、出席者との医療面での情報交換等が行われている。	会議の出席者が限られた方で固定になっている現状がある。出席が得られている方以外の方への呼びかけ等、ホームの継続した働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	連絡を取り積極的に取り組んでいる。	ホームでは、生活保護の方の受け入れも行われており、市の担当部署との情報交換等が行われている。また、管轄している広域連合が行っている研修会等に出席する機会をつくり、情報交換等につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は正しく理解する事に努め拘束はしない見過ごさないと言う意識はしっかり持ち防止に努めているがやむを得ず玄関や一部には施錠せざるを得ない所もある。	玄関は施錠されているが、エレベーターや階段での移動ができることで、ユニット間で職員による見守り対応が行われている。職員による対応等で気になった際には、管理者より注意喚起等の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員同士がお互いに行過ぎた行為に至らないよう声掛けを行い防止出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会がなくあまり理解が出来ていないが積極的に学ぶ機会を作る様努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	行っている。家族や利用者の疑問や不安に説明が出来るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族の要望は全職員が共有出来るよう努め反映させている。	ホームの行事の際には家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。家族からの要望等は、ホーム管理者の他にも法人代表者も対応する体制がつけられている。また、毎月のホーム便りには、利用者毎の報告も添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングなど日頃から発言出来る場があり反映されている。	定期的な職員会議はユニット合同で行われているが、申し送りをユニット毎に行っていることで、職員間で日常的な意見交換も行われている。職員からの意見等は管理者が把握し、代表者に報告されており、ホームの運営への反映につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	なかなか休憩が取れない事もあるが各々職員がやりがいを持って楽しく働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員が外部の研修に参加出来るよう機会を増やしている。また参加した職員のテキストを回覧しトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部の研修に参加する事で他事業所の方々との交流が出来る様になった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の今までの生活の様子など訴えを傾聴し理解するよう努め行動を観察し安心して生活出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族との会話の中や訴えを傾聴し思いをくみ取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者及び家族の話を傾聴しその事を念頭に入れ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お互いを尊重し合い介護するという一方的な考えではなく同居しているという関係を築く様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の話を傾聴し利用者に対する思いを理解し交流を大切にしていこう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や外出も自由に出来る為支援出来ている。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問することもあり、馴染みの方との交流にもつながっている。利用者により、馴染みの美容院を継続している方もいる。また、家族と喫茶や買い物を通じた外出の他にも、日帰り旅行に出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の交流が持てるようレクリエーションをやったり職員が間に入り会話の糸口を見つけ易いよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者及び家族が気軽に相談等出来る様フォローし支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや希望を聞くよう日々の生活の中で自然に話が出来関係は出来ていると思う。また困難な場合でもなるべく思いに答えられるよう意見を出し合っている。	職員が把握した利用者に関する情報等を毎月の便りを計画作成担当者が便利にしてまとめていることで、利用者の意向等の把握にもつなげている。日常的にも、利用者毎に申し送り事項をまとめることで、職員間での情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活している中や会話の中で情報を得把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの状態を注意深く観察し職員同士情報共有する事で把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日頃より意見やアイデアを反映させた介護計画を作成し実践するよう努めている。	介護計画の見直しを3か月で行うように取り組んでおり、毎月3~4人の見直しが行われている。家族とも3か月毎に面談を行うように機会をつくっており、意向等の反映につなげている。また、日常の記録についても細かく行うように取り組んでいる。	介護計画の内容をより実践的につながるように取り組んでいる。職員間で介護計画の内容を共有しながら、日常の記録に反映できるように、今後の取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日終日の申し送りや介護記録により情報共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者やその家族の思いを理解し柔軟にサービスが受けられる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域サークル及びボランティアさんには積極的に来訪頂き協力して頂いている。また公民館での作品展に出品し展示するなど支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診は家族の協力により希望に応じた医療を受ける事が出来ている。また専門医への受診時紹介状も書いて頂き受診支援出来ている。	訪問診療は、母体の医療機関以外の医師により行われているが、利用者の急変時等の際には、母体の医療機関の医師による支援も行われている。また、法人代表者が看護師でもあるため、利用者の健康チェックや医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃から何かあれば看護師に連絡報告し指示を仰ぎ適切な受診に繋げて行くよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施している。病院関係者と職員との情報共有を行い家族の相談も傾聴し関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者及び家族の意思を尊重し医師看護師とも情報共有し出来る限りの支援に取り組むよう努めている。	ホームでの看取り支援についても前向きな取り組みが行われており、医療面での支援を行いながら、ホームでの看取り支援の経験もある。家族とも利用者の身体状態に合わせた話し合いを行っており、意向に合わせた支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	心構えとして出来ているが実践力として難しく研修の機会を増やし落ち着いた対応が出来る様学びたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の水害火災等に備え避難訓練を実施しているが地域での防災訓練など参加を募る必要がある。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われており、職員間の連携に取り組んでいる。また、水害のリスクも考慮しながら、今年度の訓練の中に、1階から2階に上がる訓練を加える取り組みが行われている。	備蓄品については、関連の有料老人ホームに確保されているが、暴風雨等の際には取りに行けないリスクもあるため、ホーム内にも最低限の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間で利用者情報を共有する場合居室番号で行ったり他者に分からないようにしたり個人を尊重した対応をし言葉掛けに注意している。	理念の中に利用者への尊重を掲げられており、職員間で理念の内容を共有しながら、言葉遣い等の利用者への対応につなげる取り組みが行われている。言葉遣い等で気になった際には、管理者から注意喚起を行う等の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	訴えを傾聴し希望を聞く様努めている。また利用者の好みややりたい事を察し把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	毎日の日課に縛られることなくその日の状態に合わせて柔軟に対応し個々のペースを大切に楽しく暮らせるよう職員同士話し合いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の意思で選択出来自由に楽しみながら支援している。困難な場合も清潔に心掛け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の力量に合わせて盛り付け食器洗いテーブル拭きなどをやって頂くよう支援している。また楽しめるよう盛り付けにも工夫している。	食事については、配食業者より提供されているが、食事の際には、職員も一緒に食事を行っており、利用者との会話を楽しむように取り組んでいる。また、利用者の身体状態に合わせた、ミキサーやトロミ等の対応も行われている。	現状、利用者の参加が限られた範囲であり、調理レクの取り組みも行われていない。ホットプレートの活用等、利用者も参加した調理レクの機会が増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分制限のある利用者や摂取困難な利用者など体調に合わせてチェックを行い全職員把握出来るよう支援している。また嚥下状態に合わせてトロミや食事形態を変更し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア他定期的に訪問歯科の医師衛生士によるケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	介護度や体調の変化によりその都度検討し適切な対応が出来るよう職員同士声掛けし支援するよう努めている。	利用者全員の排泄記録を細かく残しており、ユニット毎に申し送りを行っていることで、職員間での情報を共有し、トイレでの排泄につなげている。また、母体が医療機関でもあるため、医療面での連携も行われており、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分制限のある利用者もお食事等での工夫は難しいが散歩や体操での改善や看護師との情報共有にて排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	個々に合わせた入浴方法で提供しているが体調によって変更する事もある。また曜日や時間帯は決めざるを得ない。	毎日の入浴の準備が行われていることで、利用者の状況等に合わせた対応が可能であり、時間も午前と午前に行われている。1階ユニットに特殊浴槽が設置されており、重度の方にも対応している。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の体調や習慣でいつでも休息して頂いている。また照明や室温などに配慮し気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師等の指示通りに服薬している。また状態の変化には常に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の関心ごとや興味を示す事柄を把握し好みに合わせ楽しんで頂くよう心掛け努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ほぼ毎日散歩に出かけている。また家族や職員との外出や買い物喫茶店などに出かけるよう支援している。	日常的に散歩等に出る機会をつくっており、周辺を散歩する取り組みが行われている。季節に合わせた外出行事が行われており、花見や公園等への外出が行われている。また、少人数での喫茶外出の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	物盗られ妄想などトラブルの原因に繋がる為事務所にて管理している。また外出時など必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は利用者の希望に応じて書いて頂き電話も自由に掛けて頂ける様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者と一緒に季節の貼り絵を作成したり季節を感じられる工夫や空間を作る様努めている。また空調などの調節も行っている。	リビングは広めの空間が確保されており、明るい雰囲気と合わせて、日中をゆったりした気分で過ごすことができる環境である。玄関に椅子が置いてあり、他の方と離れて過ごす配慮も行われている。また、利用者の作品の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースでは一人になる事は難しいがソファに腰掛各々仲の良い利用者同士会話が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者と家族との写真や記念の物を飾り安心して過ごせる様工夫しているが入居時使い慣れた物を依頼するが購入される家族が多い。	居室には、タンスやソファ等、様々な持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、家族の写真や趣味の物を飾っている方や親族が描いた絵画を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室やトイレには分かりやすい名札の他に小物や手作りの名札を付けるよう工夫している。		